

主題：一主イエスは特別に祈って、12 使徒を選ばれた—

目標：一主イエスは選んだ者に力を与え、主の業に用いてくださる—

2021/7/28

キリスト伝

I ガリラヤ伝道⑫

「使 徒 の 選 定」

マルコ 3:13～19 p70

ルカ 6:12～19 p120

主イエスのこれまでの歩みは、福音書の四人の著者の書き方により異なるが、振り返ると、主イエスは公生涯に立ち上がられて約9ヶ月のエルサレムと近郊の働きされ、サマリヤを通過してガリラヤに帰り、本格的なガリラヤ伝道につかれた。この間、短期間のエルサレム訪問はあったが、ガリラヤ伝道は継続された。そしてこの使徒の選定をもって一区切りとし、同じガリラヤではあるが、十二弟子を率いての本格的なお働きが継続されて行くのである。

ところで、主イエスは何の目的で、十二弟子に選ぶことに決められたのだろうか。十字架と復活を目撃させ、その証人とするためである(使徒 2:32)。しかし一人、ユダヤ人のイスカリオテのユダを加えられた。残りの弟子全員ガリラヤ人であるのに、どうしてもイスカリオテのユダを入れなければならなかった。全てを知っていながらのこの選定に、十字架に付けられる前に、すでに預言のみことばに釘付けられておられた主イエスの御心を見ることができるのである。

[聖書の学び]

I、使徒の選定

主イエスは、パリサイ人などからの敵対を受けられ、群衆にご自分を現すだけでなく、十字架後の将来に向けて、リーダーたちを育てる必要を感じられた。

1、使徒を選ばれる前の準備

—熱心党员—
国粋主義者でユダヤの自立のためには武力闘争も辞さない者

(1) 主イエスの選ばれる基準は何だろうか。(能力や賜物だけではなさそうである)

①漁師から、取税人、熱心党员まで多様な背景や経歴があり、年齢も様々である。

②主イエスご自身が望む者(マルコ 3:12 p70)

- ・いつもそばに置き、教え、語り、育てることができる人…純粹さ、素直さ。
- ・主イエスにより、愛され、罪の赦しを経験し、救われた者

(2) 弟子たちの過去・現在・未来を知っておられる主が、この12人を選ばれ、特にイスカリオテのユダを選ばれた。—— 徹夜の祈り(ルカ 6:12 p120)

(3) 「使徒」(Gアポストロス) という名前を作られ、与えられた。(ルカ 6:13)

= 遣わされた者、使命を帯び、権威を授けられ出かけて行く者の意味

(弟子：一般的な言葉、先生から学ぶという意味)

2、主イエスの使徒たちの成すこと (マルコ 3:12~19)

(1)いつも、全てを知っておられる主イエスのそばに居ること。(マルコ 3:14)

(2)福音の宣教 (十字架による罪の赦し、復活に現されるキリストの内住)

①内におられる父の御霊が助けて下さる約束。(マタイ 10:20 p18)

②再臨の約束 (マタイ 10:23)

③父なる神の守りの約束 (マタイ 10:29~30)

(3)悪霊を追い出す権威をいただき、病気を癒す。(マルコ 3:15、マタイ 10:1、8)

3、主イエスに用いられた使徒たち

①十字架と復活の主の目撃者。(使徒 2:32 p325) (今は、聖書が主イエス・キリストを証している)

世界中に福音を宣べ伝えた (マルコ 16:15 p105)

②イスカリオテのユダの代わりにマッテヤがくじで選ばれたが、後に、復活の主に選ばれたパウロ (I コリント 15:8~9 p349)

③いのちを投げ出して主イエスを宣べ伝えた。

④天の御国に刻まれた使徒の名前 (黙示 21:14 p517)

*** ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 私たちがみこころにかなった決断や行いをするためには、何が大切でしょうか。

Q. 主の選びは外見や能力ではないようです。何なのでしょう、考えてみましょう。

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。